

阿見町立学校再編計画 (概要版)

再編計画策定にあたって

わが国では少子高齢化の進展に伴い人口が減少し、経済分野における活力の低下や社会保障の負担増と合わせて、子どもや子育て環境への影響が懸念されています。当町においても、全体の児童・生徒数は減少傾向にありますが、人口増加地区では児童・生徒数が急増しています。こうした学校規模の変化は、児童・生徒の教育条件、教育環境、学校運営等にさまざまな影響を及ぼしています。

こうした状況を踏まえ、阿見町では、地域・保護者・学校関係者の代表や有識者等で構成する「阿見町立学校再編検討委員会」を組織し、町の実情に即した町立学校の適正な学校規模や適正配置など、学校再編に関する「阿見町立学校再編計画」を策定しました。

本計画に基づく学校再編の推進にあたっては、豊かな自然環境に育まれ培われてきた町の風土・歴史・伝統を踏まえるとともに、保護者、地域住民、学校、教育委員会が協議して合意形成を図りながら、次代を担う子どもたちの「生きる力」を育てる教育環境の整備を目指します。

平成 27 年 3 月
阿見町教育委員会



1

小中学校の現状

現在、阿見町の町立学校は小学校8校、中学校3校があり、平成26年5月1日現在、児童数は2,536人、生徒数は1,291人となっています。

小学校は、本郷小が児童数701人・学級数27で最も規模が大きく、阿見小と阿見第一小も児童数は500人を超えています。一方、実穀小、吉原小、君原小の3校は児童数が100人を下回り、一学年あたり1学級となっています。

中学校は、竹来中が生徒数482人・学級数16で最も規模が大きく、次いで阿見中（生徒数468人・学級数16）、朝日中（生徒数341人・学級数12）の順となっています。

表1 学校別児童・生徒数、学級数

（単位：人、学級）

小学校	阿見小	実穀小	吉原小	本郷小	君原小	舟島小	阿見第一小	阿見第二小	計
児童数	516	89	66	701	78	365	507	214	2,536
学級数	19	7	7	27	7	13	21	9	110

中学校	阿見中	朝日中	竹来中	計
生徒数	468	341	482	1,291
学級数	16	12	16	44

※学校基本調査（平成26年5月1日現在）、
学級数は通常学級数＋特別支援学級



2

町立学校再編に関する住民意向

就学前児童と小学生の保護者、小学6年生及び中学1年生を対象としたアンケート調査の実施とともに、地域や保護者を対象に意見交換会や説明会を開催し、さらにパブリックコメントを実施しました。

住民意向のまとめ

一学年あたりの学級数

- 現状以上の学級数を希望する保護者や児童は、クラス替えへのニーズが高い。
- 一学年2学級以上を希望する保護者が多い。

1学級あたりの児童数

- 1学級20人前後の学校では、児童数が少ないと感じている児童の割合が高い。
- 1学級20～30人を希望する保護者が多い。

学校再編

- 学校再編が必要と考える保護者が多いが、現状のままを希望する意見は全体で3割強、小規模校では4割程度みられる。
- 小規模校でも子どもへの教育を考え、学校再編を行ってほしいという意見もある。
- 本郷小学校区では、児童数の増加による教育環境への影響を指摘する声が多く、小学校新設への高いニーズがある。
- 学校再編により現状より規模が大きくなる学校では、環境が変化することに不安を感じている保護者が多い。
- 将来、本郷地区新小学校に通学することを想定して宅地を購入している世帯もあり、通学区域の設定にあたっては、地域との合意形成を図ってほしい。

通学区域や通学時間

- 通学時間が30分を超えると、通学時間が長いと感じる児童・生徒が4割以上となる。
- 遠距離通学への配慮として、スクールバス等の運行は不可欠と考える保護者が多い。

3

再編の基本方針

(1) 学校規模の基本的な考え方

学校教育には、児童・生徒がさまざまな人間関係を体験することにより、豊かな人間性や社会性、思いやりのある心を育てていく役割が強く期待されており、小中学校の規模は、教育活動や児童・生徒の学校生活を左右する重要な要件の一つであると考えています。

このことから、子どもたちにとってより良い教育環境の充実を目指して、学校施設・学校経営・地域との関係の観点、また、国や県の基準などを参考に、阿見町の望ましい学校規模の基本的な考え方を定めます。

(2) 望ましい学校規模

① 小学校

児童にとって、クラス替えを通じてさまざまな人間関係が生まれ、そこから多様な価値観・学習意欲・よい意味でのライバル意識が芽生えるための環境整備が必要です。

また、学校教育活動では、総合的な学習の時間等で課題別活動に幅を持たせること、体育的・文化的学校行事において学級ごとに取り組めるなど、集団としての教育を考慮した教育活動を実践していくことが重要です。

さらに教員にとって、一つの学年に複数の学級があることは教員相互の研修が可能となるほか、適正な校務分掌を図ることが可能となります。

これらを踏まえ、小学校における望ましい学校規模を次のとおりとします。

- 一学年 2 学級以上
(概ね一学年 2～4 学級)
- ※学校全体では
12～24 学級



② 中学校

中学校は教科担任制であることから、各教科に専門の教員を確保することが必要となります。同じ教科を担当する教員を複数配置することにより、多様な学習・指導形態がとりやすく、指導方法の向上を図ることができます。

これらを踏まえ、中学校における望ましい学校規模を次のとおりとします。

- 一学年 3 学級以上
(概ね一学年 3～6 学級)
- ※学校全体では
9～18 学級

(3) 適正配置の基本的な考え方

児童・生徒数の減少が予想される中、安定的に望ましい学校規模が確保できない小学校については、統合を視野に入れた段階的な対応が必要となっています。

一方、児童数が増加している本郷小学校区においては、通学区の検討や新小学校建設へ向けた取り組みを進めています。

学校の適正配置にあたっては、これまで学校が地域で果たしてきた役割や地域の事情を十分に配慮した上で、保護者、地域住民、学校関係者などに対し、学級数等の将来推計、学校の小規模化による問題点等について説明するとともに、十分に協議するなど、適正配置の必要性に関する共通理解と協力を得て進めることが必要です。

これらを踏まえ、学校の適正配置の基本的な考え方を次のとおりとします。



① 小学校

- 本郷地区に新設する小学校を含めて、町全域の配置を検討する。
- 望ましい学校規模に満たない学校は、遠距離通学者への配慮をして、隣接校との統合を検討する。



② 中学校

- 望ましい学校規模であるため、現状のままとする。

4

再編計画

(1) 再編実施方針

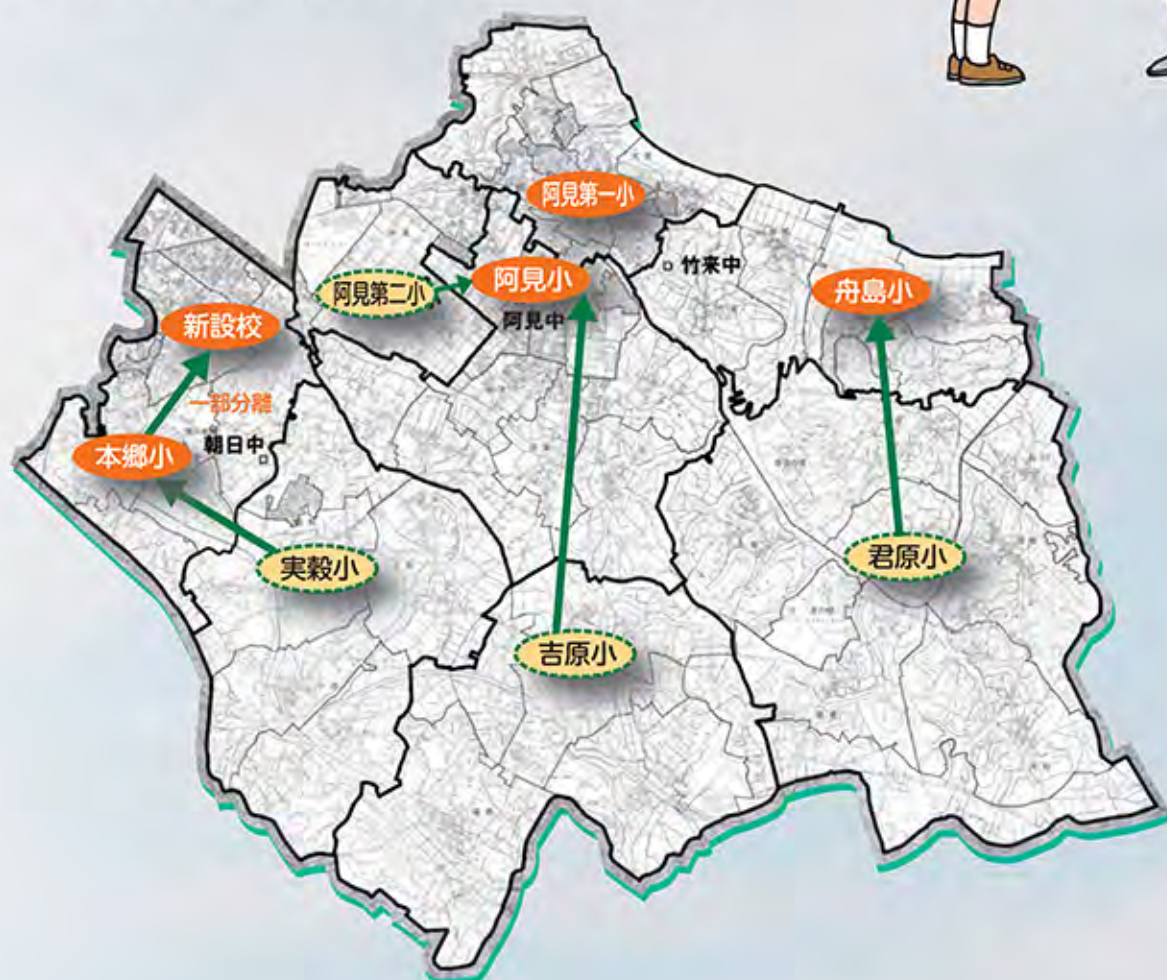
① 児童数の将来推計，通学等を考慮した具体的な適正配置

望ましい学校規模，適正配置の基本的な考え方を踏まえ，町立小学校の適正配置を次のように設定します。

- 進学する中学校を基本に小規模校を隣接校に統合する。
- 実穀小，吉原小，君原小，阿見第二小を隣接校に統合し，本郷小の一部を新設校に分離し5校に再編する。
- 小中一貫教育については，「阿見町教育推進委員会」を充実させ，今後，他の市町村の実施状況等を参考にして，阿見町の児童・生徒の実態に合った教育について継続して調査・研究を行う。



図1 児童数の将来推計，通学等を考慮した具体的な適正配置



② 児童数の将来推計から想定する再編実施時期

一学年1学級となる学年が発生する実穀小、吉原小、君原小及び阿見第二小は、子どもたちにとってより良い教育環境の充実を目指して、検討委員会（仮称）を組織し保護者、地域住民、教育委員会等と統合に向けた協議を行います。合意形成が図られ次第、統合準備委員会（仮称）を組織し、統合校間の交流を実施して再編します。

なお、教育委員会は再編実施時期に係る児童数の将来推計を毎年実施し、関係者に情報提供を行います。



図2 再編実施までのイメージ



表2 平成30年度の学校規模（現状のまま）

（単位：上段：人，下段：学級）

平成30年度	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合 計
平成26年度	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	1 年生	2 年生	
阿 見 小	77	70	81	83	70	100	481
	3	2	3	3	2	3	16
実 穀 小	16	23	13	20	13	13	98
	1	1	1	1	1	1	6
吉 原 小	8	8	7	9	5	10	47
	1	(1)		(1)		1	2(2)
本 郷 小	149	152	182	169	142	118	912
	5	5	6	5	4	4	29
君 原 小	10	9	18	12	13	14	76
	1	1	1	1	1	1	6
舟 島 小	14	45	32	36	50	60	237
	1	2	1	2	2	2	10
阿見第一小	76	66	79	72	60	84	437
	3	2	2	2	2	3	14
阿見第二小	27	32	35	35	37	36	202
	1	1	1	1	1	1	6
計	377	405	447	436	390	435	2,490
	16	14(1)	15	15(1)	13	16	89(2)

※()内は複式学級

表3 再編後の学校規模（平成30年度の推計）

（単位：上段：人，下段：学級）

再編案		中学校区	1年生 2歳	2年生 3歳	3年生 4歳	4年生 5歳	5年生 1年生	6年生 2年生	合計
阿見小	吉原小、阿見第二小と統合	阿見中	112	110	123	127	112	146	730
			4	4	4	4	4	5	25
本郷小	実穀小と統合、一部分離	朝日中	47	64	47	52	43	41	294
			2	2	2	2	2	2	12
新設小	本郷小から分離		118	111	148	137	112	90	716
			4	4	5	4	4	3	24
舟島小	君原小と統合	竹来中	24	54	50	48	63	74	313
			1	2	2	2	2	2	11
阿見第一小	変更なし		76	66	79	72	60	84	437
			3	2	2	2	2	3	14
計			377	405	447	436	390	435	2,490
			14	14	15	14	14	15	86

③ 本郷地区新小学校の通学区域

通学区域については、通学距離・時間や地理的な条件、通学時の交通安全確保や境界が分かりやすい幹線となる道路を考慮するとともに、本郷小地区の9行政区の意向を聴取した結果、都市計画道路「荒川沖・寺子線」で区分することを基本とし、地域との合意形成を図るように進めていきます。



(2) 通学について

① 通学路の安全確保

学校再編による通学区域の変更に伴う危険箇所の再点検を行うなど、引き続き通学時の安全確保に努めます。

② 遠距離通学に対する通学支援

学校再編に伴い遠距離通学となる児童を対象に、子どもたちの体力・安全面を考慮してスクールバスや路線バス等を活用した通学支援を行います。

スクールバスの運行については、運行方法や本数、ルートなどについて、保護者や学校と協議の上、他市町村の事例を参考にして具体的な検討・決定を行います。

(3) 学校生活について

① 再編後の学校生活における不安への対応

児童及び保護者の不安を解消するため、それぞれの統合対象校が設置する統合準備委員会（仮称）において、地域性等も考慮しながら具体的な検討を行います。

② 統合に向けた事前交流

児童及び保護者の事前交流の機会を充実させるために、それぞれの統合対象校が設置する統合準備委員会（仮称）において、当該小学校が実施してきた行事等も考慮しながら具体的な検討を行います。



③ 統合校による施設整備

学校再編により児童数が増加する統合校では、教室へのエアコンの設置、トイレの改修（洋式化）、グラウンドや遊具・備品等の整備、給排水設備の更新などを計画的に実施します。

また、スクールバスの運行に伴い、乗降スペース整備の検討も行います。

④ 放課後児童クラブの実施方針

子どもたちの健全育成や放課後の居場所づくりを推進する観点から、すべての小学校において学校敷地内での放課後児童クラブの実施を基本とします。

また、必要な指導員数の確保とともに、研修等の充実による指導内容の質の向上を図ります。



阿見町教育委員会 学校教育課

〒300-0392 茨城県稲敷郡阿見町中央一丁目1番1号

TEL 029-888-1111（代表）FAX 029-888-3601

ホームページ <http://www.town.ami.lg.jp/>